

# クラスの男の子と公園で遊んで る時、おしっこしてるところを見 ちゃった女の子の話

放課後の鐘が鳴り終わると、芽美と幹太はいつものように一緒に校門を出た。二人は小学4年生の同じクラスで、近所に住んでいることもあって、よく放課後に公園で遊ぶ仲だった。この日も、ブランコに乗ったり、滑り台を滑ったりして、笑い声が絶えなかった。

しばらく遊んでいると、幹太が急に顔をしかめて言った。「やべ、おしっこ漏れそう……」芽美はびっくりして、「え、大丈夫？ おうち近いのに

我慢できないの？」と聞いた。幹太は足をモジモジさせながら、「もう限界……トイレ遠いし」と小声で答えた。公園の公衆トイレは少し離れた場所にあって、間に合わない様子だった。

幹太は慌てて近くの木陰の方へ走っていった。芽美はなんだか心配になって、「幹太、待ってよ。一人じゃ危ないよ」と後を追った。木陰は少し茂みがあって、人目にはつきにくい場所だった。幹太はそこに着くと、すぐにズボンの前を下ろし始めた。

芽美は少し遅れてその場所に着いた瞬間、目の前で幹太がパンツを膝まで下ろすところを見てしまった。

「えっ……！」芽美は思わず声を上げそうになったが、慌てて口を押さえた。幹太は芽美に気づいていなかったのか、それとも気づいていても我慢できなかったのか、そのままおちんちんを出して、おしっこを始めた。